



エコが千代田の自慢です！

エコチヨ

Vol.9 2019 春号

Contents p. 2-3 CESを知ろう

p. 4-5 大都会の中のミクロワールドを観察しよう！

p. 6 「エコ&サイクルフェア2018/千代田のエコ自慢」開催、CES養蜂プロジェクトの活動報告

p. 7 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた暑さ対策 千代田区環境まちづくり部環境政策課

p. 8-9 助成内容拡充 この機会に省エネ改修を

(一社)千代田エコシステム推進協議会

p. 10-11 2019年度上半期イベントカレンダー 他

[春・秋 年2回発行]



千代田のエコを推進しよう！

ces
千代田エコシステム



「私たちの身近なエコを推進する、 それがCES(シーイーエス)です。」

CESって
何?

CESって
何をするの?

2008年に施行された「千代田区地球温暖化対策条例」に基づき構築された千代田区独自の環境マネジメントシステムです。システム名の「千代田エコシステム(Chiyoda Eco System)」の頭文字を取り、CESの略称で呼ばれています。国際規格である「ISO14001」の取得に比べ手続きが簡単で、運用経費も抑えられるメリットがあり、千代田区に関わるすべての人々が取り組みやすいシステムとして考案されました。



千代田区地球温暖化対策条例 第13条

(環境マネジメントシステム)

- 事業者は、千代田エコシステムなど環境マネジメントシステムの導入に努めるものとします。
- 区は、区民や事業者へ千代田エコシステムの普及を促します。
- 区民は、千代田エコシステムへの参加に努めるものとします。

環境マネジメントシステムとは…

事業者が経営方針で定めた環境方針や目標の達成に向けて取り組む「環境マネジメント」(環境管理)を進めるための、工場や事業所における体制や手続きなど一連の仕組みのこと。

ISO14001と同様にPlan(計画の策定)→Do(計画の実施)→Check(取組み状況の点検)→Action(全体の評価と改善)→Plan(計画の策定)…という<PDCAサイクル>に沿って環境配慮活動を実施していただきます。

企業・教育機関・病院・各種団体などが対象のクラスⅢでは、CES推進協議会に所属する知識と経験が豊富な主任監査員が年に1回現地での監査を行います。その結果を元に認証委員会で活動内容が妥当であるかどうかの審査が行われ、認定された施設には「CESクラスⅢ認証書」が発行されます。



ECO

どんなメリット があるの?

コストの削減・業務の効率化

ISO14001に比べて手続きや活動内容が簡略化されているため、導入～運用にかかる作業工数が抑えられます。また、運用に必要な費用も削減できるため経済的です。

千代田区で実施している商工融資あっせん制度の優遇措置対象となり、低利融資を受けられる制度や、CO₂排出量の削減率に応じて助成金が交付される低炭素建築物助成制度などを利用することもできます。

※制度の利用には一定の条件を満たす必要があります。詳しくは千代田エコシステム推進協議会へお問い合わせください。



対外的イメージの向上

CES(クラスⅢ)の認証事業所には、認証書を発行します。

その中でも特に優秀な活動をしている施設については当協議会より表彰を行い、記念品を贈呈いたします。広報誌等にも掲載され、積極的に環境に配慮している組織であることがアピールでき、顧客からの支持を得られるなど、ビジネスチャンスにつながります。

環境意識の向上

CESの教育、研修および日常の取り組みなどを通して、組織内の環境意識やモラルの向上が図れます。



子どもゆめ基金助成事業

大都会の中の ミクロワールドを観察しよう

11月11日(日)秋の巻／1月26日(土)初春の巻

秋の巻

8月の「夏の巻」に続き「秋の巻」を、葛西臨海・環境教育フォーラムの特別協力を得て、区内在住の親子を対象に、日比谷図書文化館と日比谷公園で開催しました。

当日は、前日の雨も上がり、過ごしやすい秋晴れの中、子ども17名、保護者14名にご参加いただきました。この日のテーマは「ミクロの友達(苔)を探しに行こう!」です。

まずは日比谷図書文化館の小ホールにて、当協議会泉崎事務局長の挨拶と、講師の高橋先生からこの日の内容の説明がありました。その後に苔の専門家の池田先生から、苔も植物であること、でも普通の植物とは異なる点がたくさんあるということを、クイズを用いて説明がありました。

午前は日比谷公園に出て観察です。スマートフォン・タブレット端末に顕微鏡アタッチメント(スマホ顕微鏡)を装着し、使い方やどのように撮影したらいいかを練習した後は、実際にスマホ顕微鏡を使って公園内の苔を観察しました。いつもはほとんど気にしない苔ですが、探してみると実に様々な場所に生えていることにみんな驚いていました。



撮影後、日比谷図書文化館に戻り、自分のお気に入りの1枚とその理由(なぜそれを選んだのか、どんな触り心地だったかなど)を、プロジェクターで投影して発表してもらいました。

午後は作品づくりです。「もし自分の頭に苔が生えてきたら」をテーマに、公園で見つけた苔がどのようなところに生えていたのか、どんな生え方をしていたのか、どんな形だったか、を思い出し、頭に被れるように紙で作った土台を石や地面に見立て、その上に苔の写真等を重ねていきます。

工作は基本的に子どもが主体で行いますが、保護者の方々には、テーブルの上に、苔の生えていそうな「木」「石」「土」を3班に分かれて作ってもらいました。大変に高いワオリティで講師の先生方も驚いていました。

いよいよ発表です。保護者の方々が作ってくれた「木」「石」「土」のどこに自分の頭が生えているのかを、ひとりづつ発表してもらいました。



3回目となつた最終回の「初春の巻」も、引き続き葛西臨海・環境教育フォーラムの特別協力を得て、区内在住の親子を対象に、千代田区役所内会議室と北の丸公園に会場を移して開催しました。

当日は、多少風が吹いていましたが冬晴れの中、子ども19名、保護者13名にご参加いただきました。最終回のテーマは「ミクロの世界に生き物探しに行こう!」です。

はじめに千代田区役所内会議室にて当協議会事務局長の挨拶と講師の先生方の紹介がありました。今回は、観察会場で何を重点的に観察するかによって「水の中の生き物」「コケ・キノコ」「植物」の3チーム



に分かれます。分かれたチームには、それぞれの担当講師の先生からどんなチームなのか、どんな生き物が見られそうかを説明してもらいます。

※実際には自分のチームの生き物だけではなく、ほかの2つのチームの生き物などについても観察するよう先生からの説明がありました。

それぞれのチームのみんなが仲良く観察できるよう、簡単な連想ゲームで場をほぐしたところで、観察のメインアイテムであるスマートフォン顕微鏡の使い方を学びます。

その後、北の丸公園に移動し、チームごとに観察を開始です。

【水の中の生き物チーム】

環境省から特別に許可を受けて園内の池から水を採集し、肉眼で動くものがあるかどうかを確認してから、スマートフォン顕微鏡で水中のプランクトンを観察しました。

肉眼では最初は何も見えませんが、スマートフォン顕微鏡を通して見ると実はものすごくたくさんの生き物が動いていることがわかってみんな驚いていました。このチームはプランクトン学者の石丸隆先生が特別ゲストとして参加してくださいました。

見つかったプランクトンは、カイミジンコ・アオミドロ・ワムシ・ウンショウモ・ノープリウス・ソコミジンコなど。

【コケ・キノコチーム】

コケは1年を通じて緑色をしているので、初春とはいまだまだ寒いこの時期でもしっかり観察できるのが特徴です。ただし、乾燥しているため、いろいろなところにへばりついているコケの多くがカラカラになっているので、霧吹きで水を吹きかけて広げて観察します。

見つかったのは、サヤゴケ・ツヤゴケ・スエヒロタケ・ヤケイロタケなど。

【植物チーム】

観察の主な対象は木の皮の裏にいる虫たちです。ケヤキ、クロガネモチ、ハマヒサカキのような固い皮の木は、その皮をめくるとたくさんの虫たちがいます。

足下の落ち葉もめくってみると、寒い季節ですがたくさんの昆虫が見つかりました。

見つかったのは、テントウムシ・チャタテムシ・コナジラミ・ササグモ・トビムシ・アカスジキンカメムシ・チャツゲコナシジミなど。

お昼休みをはさんで会議室に戻り、3つのチームからそれぞれ、公園のどこで見つけたかや、[食べる]と[食べられる]、[住む]と[住まる]、など関係しあう2つの生き物を挙げて発表してもらいました。

午後のアートプログラムのメイン講師である岩田先生から、生き物同士の関係をつないでくれる「と」(andの意)をつくる説明がありました。どのように関係しあっているかを一筆書きの「と」という文字に仮託して、それをアートで表現します。

子どもたちが「と」を作っている間に、保護者の方々にはその「と」が見つかった公園を再現してもらいました。



できあがった「と」を公園の上に配置して完成です。最後はラシャ紙の額縁に飾って家に持ち帰ってもらいました。



講師（「秋の巻」「初春の巻」共通 敬称略）

池田 英彦：日本蘚苔類学会会員

岩田ともこ：アーティスト

佐々木知幸：樹木医

高橋 麻美：科学コミュニケーター

JAMSTEC(海洋開発研究機構)

宮嶋 隆行：葛西臨海・環境教育フォーラム

特別ゲスト

石丸 隆：東京海洋大学名誉教授（初春の巻のみ）

協力：東邦大学ボランティア部のみなさん

12月1日(土) 「エコ&サイクルフェア2018/ 千代田のエコ自慢」開催

毎年ご好評をいただいている千代田区との共催イベント「エコ&サイクルフェア2018/千代田のエコ自慢」を開催いたしました。

今年も多くの方にご来場いただき、「リメイク着物を着てのファッションショー」や、「エコで災害時に役立つカト一折り」「廃材活用のアロマフラワー作り」「生ハーブ石鹼作り」「毛糸でX'masオーナメント作り」などのワークショップが行われ、恒例の「子ども服交換会」「CES環境クイズ」では、楽しみながら環境に触れていただきました。

そのほか「CES養蜂プロジェクトの紹介」「地中熱について学ぼう」「フィルム剥がしてリサイクル」「某大学独自の環境マネジメントシステム」「食品ロス削減のエコかるた」など様々な展示ブースを出展し、多くの来場者に関心をお持ちいただきました。



▲共立女子大学によるリメイクファッションショー



▲ワークショップ・展示ブースの様子

CES養蜂プロジェクトの 活動報告

12月9日(土)9時からお昼まで、区立富士見区民館調理室で、養蜂ボランティアの有志の方々にお集まりいただき、今までに採取したハチミツを小瓶に詰め替える作業を行いました。小瓶と蓋を煮沸消毒して、冷えて固くなったハチミツを温めて柔らかくしてから計量カップに移しました。手作業で小瓶に流し込み、オリジナルのラベルシールを貼り、200個ほど作りました。小瓶に詰めたハチミツは、会員の方やお世話になった方々にお配りいたしました。

午後は、当協議会養蜂担当の松沢友紀理事による、1年間を振り返っての養蜂講習会を開催いたしました。また新年度以降の活動方針についても説明を行い、出席した会員の方々からご意見・ご要望も寄せていただきました。



▲ハチミツ瓶詰作業風景



▲養蜂講習会